



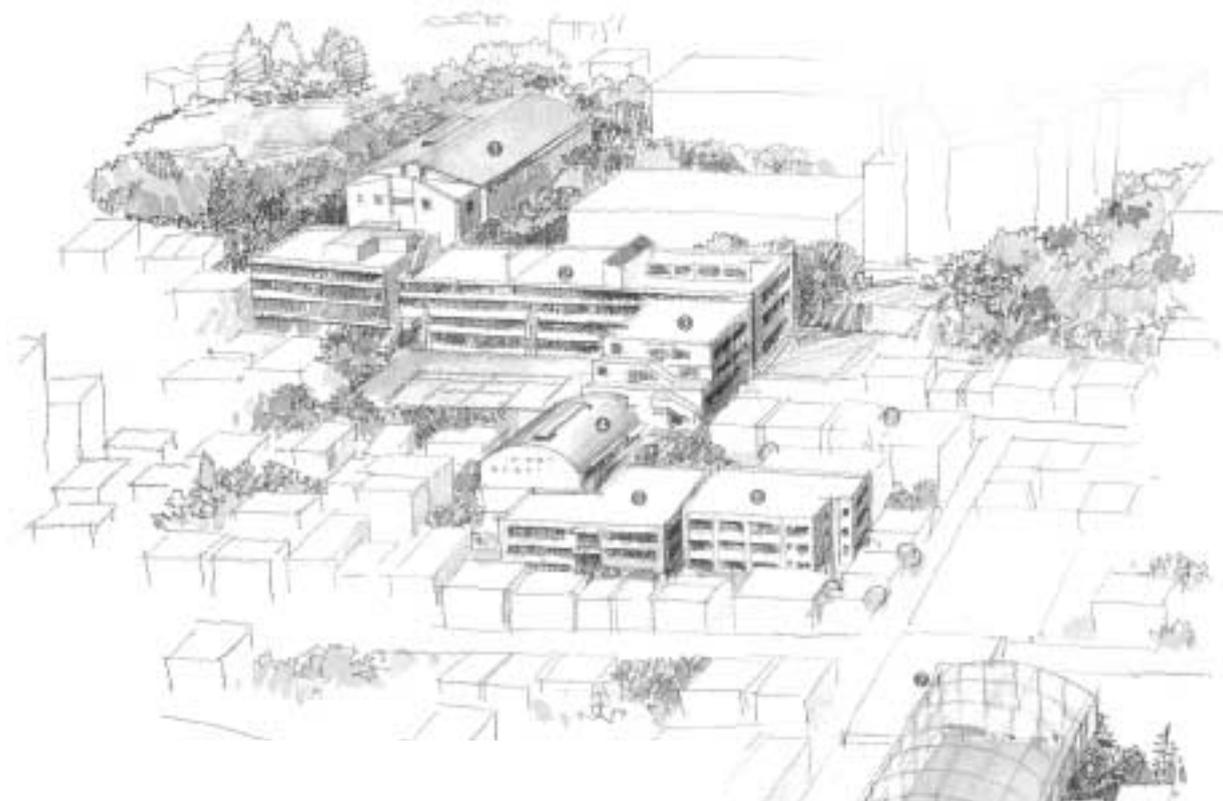
桐

K

I

R

I



今回は、卒業されてからもう何年も母校に足を運ばれていない会員諸兄の皆様に向けて、現在の母校施設を紹介させていただきます。

中目黒の閑静な住宅街に建つ目黒学院。校舎群は、平成元年に新築された本館を中心に、南館、第一別館、第二別館、第三別館から成っています。クラス教室は本館と第三別館に、実習教室や特別教室は南館・第一別館・第二別館にあり、休み時には教室を移動する生徒たちの姿が見られます。創立50周年の記念に、本館とともに新築された記念館では、体育の授業やささまざまな式典が行われます。目黒川沿いにあるグラウンドは、平成5年に人工芝を導入し、いつも緑が鮮やか。水はけがよく、最新の使いやすさが運動部の生徒たちにも好評です。

①記念館



②本館



⑤第二別館



⑦グラウンド



③南館



④第一別館



⑥第三別館

平成15年度会務報告



同窓会会長

安 達 富 夫

(昭和43年 3月卒)

イラク戦争の戦闘終結が宣言されて1年余が経過しましたが、今なお国際情勢は極めて不安定な様相を呈しております。一方、国内経済は、企業の設備投資の増加、株価の値上がり、個人消費の増加傾向と、ようやく景気回復の「薄明かり」が見えてきて、社会の各方面で活躍されている会員諸兄の皆様の中には、安堵の胸を撫で下ろし、さらなる景気高揚へと期待をふくらませているのではないのでしょうか。そのような中、会員諸兄におかれましては、お元気に活躍されてますでしょうか。

さて、本年は、定期総会が開催されませんので、本誌を通してこの1年間の経過報告等をさせていただきます。

まず、母校の行事につきましては、例年同様、卒業式、梧林祭等に同窓会から代表が出席して、卒業生、在校生に対する激励を行ってまいりました。

次に、本会の会員数について申し上げますと、去る3月10日の卒業証書授与式を以て、新たに260名の新会員を迎え、会員総数では28,730名を数えるにいたりました。このうち、本年の親子2代に亘る卒業生は、4組8名でありました。(8頁記載)

また、同窓会賛助会費の納入については、本年も多数の会員からのご賛同と深いご理解をいただき、平成15年度は7頁にご芳名記載のとおり216名の方々から納入をいただきました。ここに、謹んでお礼を申し上げます。この賛助会費は、すでに本誌にてもご案内させていただいたとおり、平成14年度より納入対象者、納入金額ともに見直しをさせていただき、一口1,000円で全会員を対象としてご協力を仰ぐことにしました。その結果、納入者は一口5,000円納入の最後に当たる平成13年と比較して58名増加し、過去15年間の中で3番目に当たる人数となりました。また、216名中新規協力者は、約40%にあたる85名となり、さらに、34%にあたる74名の方々方が5,000円から30,000円の大口協力者でありました。重ねて厚くお礼を申し上げます。

ところで、この賛助会費については、同窓会の危機的な財政状況を打開するため、平成元年から納入をお願いいたし、ご協力をいただいております。以来、この15年間にご協力くださった方々は延べ約2,460名、金額では1,170万円を超える結果となり、本会の財政再建に大きく寄与してくれております。

大変に有り難うございます。

なお、本年も、本誌の発送とともにすべての会員に、賛助会費(同窓生年会費)の払込通知票を同封させていただきましたので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。また、口数は任意ですので、お志のある方は、是非、複数口のご協力を重ねてお願い申し上げます。

次に、昨年10月『週間朝日』に連載の「21世紀 名門私

立中学・高等学校」に、母校目黒学院高等学校が掲載されました。会員諸兄の皆様のなかにも、ご覧になられた方もあろうかと思えます。同窓会では、このおりに広告掲載の形で協力させていただきました。

昨年、12月中旬、会員のお一人から、学校事務局を通して、ある問い合わせがございました。それは、本年、1月24日(土)に同窓会が開催される旨の案内が届いたため、その真偽のほどを確認する問い合わせでした。本会では、早速、その案内状を取り寄せましたところ、その内容は、クラス会とかある特定の卒業年を対称とした同期会ではなく、あくまでも私立目黒高等学校の同窓会開催の案内状であり、参加費(一次会:2万円、二次会:1万円)を指定銀行口座へ事前振込することを求めた案内でした。案内状に記載された代表者2名は、確かに実在する本会会員でしたが連絡は取れず、幹事を一任されたと称する某有限会社も記載された連絡先では、連絡が取れない状況でした。そこで、本会では、案内状に記載された一次会開催会場である、都内の某有名ホテルと二次会開催会場のホテル近くの某イタリアンレストランに問い合わせを行い、予約の有無を確認しましたが、案の定1月24日にそのような予約はありませんでした。このことからして、これは紛れもなく本会の名を語った詐欺行為であり、本会代表者として大変、遺憾に思っております。しかも、この関与の有無は不明なもの、実在する会員の氏名を使用して、金員を募る行為が行われましたことは、これまた大変残念なことです。会員諸兄におかれましては、今後もこのような勧誘に際しては、充分にご注意をお願いしたいと思います。

おわりに、今後もなお一層、同窓会に対するご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

会員諸兄の益々のご健康とご繁栄を祈念申しあげて、会務報告とご挨拶といたします。



東邦工業株式会社

Toho Industries & Co., Ltd.

- 業務内容：熱硬化性プラスチック用インサートナット
熱可塑性プラスチック用インサートナット
携帯電話対応インサートナット
ステンレス精密シャフト
- 使用機械：スイス製自動旋盤
NC複合加工自動旋盤
NC自動旋盤

代表取締役 **土方 国任** (31年3月卒)

Hijikata Kunitaka

本社工場
東京都目黒区下目黒2-12-3
TEL 03-3490-1311(代)
FAX 03-3490-3848

大岡山工場
東京都目黒区大岡山1-6-10
TEL 03-3717-3153
FAX 03-3717-6790



ご挨拶と学校の動向



理事長・校長

関 口 隆 司

平成15年度は、目黒学院高等学校の改革元年と位置づけられる年となりました。昨年の3月に生徒・保護者に対しアンケートを実施し、分析した結果、生徒やご父母のニーズにできる限りこたえるべく、以下の3つについて見直しを行いました。

1. 年間行事予定の見直し

学校での学習活動が種々の行事で寸断されないように、行事の実施時期を変更するなど、生徒が落ち着いて学習できるよう配慮しました。

2. カリキュラムの見直し

すでに新教育課程にもとづくカリキュラムを実施していましたが、各コースの学習目標が明確になるよう、更に変更を加えることとしました。

3. 校務の見直し

従来の校務の統廃合を行う一方、入試対策・広報部を設置して学校業務が効率的かつ円滑に推進できるようにしました。これらはいずれも今年度から実施されることとなります。変化には様々な困難やときには混乱が生じることもありますが、必ずや教育効果の向上に結びつくものと信じております。どうぞ引き続き同窓生の皆様の忌憚のないご意見を賜りたく存じます。

以下に若干のご報告を申し上げます。

1. 学校行事

平成15年度の目黒学院では、ほぼ予定通り順調に学校行事・教育活動が行われました。本年度から「総合的な学習の時間」の一部として、総合進学

コースの2年生には小論文指導を授業で行うこととなります。また、校外授業の日程が4月初めに変更されるのに伴い、「目黒学院の森作り」（植樹活動）は今後2年生で取り組むことになりました。今年の梧林際でも校庭で展示や苗木の販売を行う予定です。

2. 教職員の異動

佐々木農夫也先生（副校長・理科）、岡本勝利先生（社会）、鈴木信孝先生（事務）が定年退職されたほか、砂川敏先生（保健体育）、北宮慎介先生（事務）、吉羽真理先生（家庭科助手）が退職されました。なお、本年度から小山徹先生（社会）が副校長に、杉田一己先生（国語）が教頭に就任されました。また、吉羽真理先生は引き続き講師として生徒指導に当たっております。

一方、松本武巳先生を法人事務局長にお迎えしたほか、持丸博一先生（数学）、田部勝也先生（理科）、石井健一郎先生（理科）、椎名俊哉先生（事務）を新任でお迎えいたしました。現在の専任教員数は61名、専任職員数は7名となっております。

3. 部活動の状況

関東大会以上に出場したのは、ラグビーフットボール部・相撲部・弓道部・空手道部・ゴルフ部・水泳部でした。相撲部は国体で個人ベスト8となっております。また、本校の部活動ではありませんが、フィギュアスケートでは2年連続でインターハイ団体優勝を果たしました。

4. 大学進学状況

本校のホームページ (<http://www.meguro.ac.jp/>) に平成16年度の大学進学実績を掲載しております。在校生のほとんどが大学進学希望であり、生徒の志望進路実現のための学力増強に教職員一同真剣に取り組んでいく所存です。勉学であれスポーツであれ、真摯にかつ夢中で取り組み、自分自身の考え方にこだわりを持った「有言実行」の男子を育成したいと考えております。

夏が来れば、思い出す(その2)



前校長

須 藤 亘 啓

前号で、安全第一をモットーとする山登りは、目黒の山岳部で学んだことを書き、北アルプス・裏銀座での体験記を掲載していただきました。再度、登山などの紀行文をとのお話が寄せられましたので、「その2」として「塩見岳-荒川岳-赤石岳（南アルプス・南部）縦走」に参加したことを、当時のメモから記憶を呼び戻して書きました。

『南北に長い南アルプスは、日本一高い峠、三伏峠を境として北部・南部に分けられ、鬱蒼とした原生林がかもしだす重厚な山並み、重量感溢れた山容をもち、スケールの大きさ

が魅力』と案内書にありますが、雑誌『山と溪谷・臨時増刊南アルプス（昭和53年7月）』には『南ア・北部の縦走は、



【写真1】 懐かしのキスリング・スタイル

登山者の気力が成否の鍵、忍耐強く取り組むべきだ。南ア・南部の縦走となると更に難しい。三伏峠以南には営業小屋は少ないので相当量の食料・装備を用意しなければならない。山が深いので、不測の事態・疲労には、無理せず途中下山することだ。特に荒川岳・赤石岳から聖岳までの主要部は、かなりの頑張りを要するところだ。』と紹介されていました。安全を配慮し慎重に企画された合宿に参加したことは、私の、その後の教員生活に資することを学ぶ貴重な経験を重ねることになりました。

『昭和31年塩見岳－荒川岳－赤石岳－聖岳縦走計画』には、期日・場所・参加者が、次のように記されています。期日は、7月25日から8月4日（予備日の二日を含む。天候不良などに備え）まで。行程は、新宿－伊那大島－三伏峠－塩見岳－烏帽子岳－小河内岳－荒川岳－赤石岳－大沢岳－聖岳－聖平－北俣渡－木沢－平岡－新宿。参加者は、中西先生・飯村先生、早乙女君・高橋君（OB）、磯貝（3年）、美野・奥泉・酒井（2年）、小森・草野（1年）でした。

初日は尾根への取り付きを前にし、塩川沿いの大河原で幕営する。翌日、いよいよ、南ア・南部の3,000mの山々を目指し、日本最高所の三伏峠に向けて、重いキスリングを背負って（今は殆ど見られなくなりました）黙々と歩き【写真1】、黙々と登高する。三伏小屋に着き、近くにテントを張る。明日の塩見岳往復に備えて早々に寝る。

三伏峠から本谷山・塩見岳への稜線は、南アルプスの中核にあるので、四圍の眺望には目を見張る。塩見岳の頂上に立てば、幸い好天に恵まれ、日本第二の高峰北岳と間ノ岳・農鳥岳、甲斐駒ガ岳・千丈ガ岳などを遠望することができ、これまでの疲れが一辺に吹き飛んでしまった。360度の景観に満足し、ゆっくり幕営地に戻る。

三伏峠のお花畑に出て稜線を辿ると三伏小屋からのルートに合う。ひと頑張りして烏帽子岳、ハイマツ帯に散在するお花畑の中、よく踏まれた跡が続く。小河内岳・板谷岳を越えて、今日の幕営地とする高山裏露営地に辿り着いた。半分冗談で「疲れたから帰りたい」と話したら「どうぞ」、で「どのくらい掛かる」と聞くと「3日」、「先に進んだら」と聞くと、やはり「3日」と言われる。これでは進まざるを得ない。本気で先に進む腹を決めるしかなかった。



【写真2】 赤石岳頂上

南アルプスの山は深いか大きいと言われるが、頂上が見えている荒川岳北面の600mの直登はきつく、岩礫帯をひたすら急登し、岩稜の一角に辿り着く。何時間かかったことか、

去年のブナ立尾根の登りより厳しく思えた。以来、何処の山に登っても、「もうすぐ頂上だ」の声を聴くと、一気に疲れが出て大休止する悪い癖がついてしまった。荒川中岳・前岳を越える。荒川小屋の便所にはドアがない。新聞紙を拵げてドア代わりにする。ふと前方を見ると、遙か彼方に富士山が見えた。以後、いろいろな処で見た富士より、ここで見た富士山の姿が記憶に残っている。

縦走路に出て、大聖寺平でOBの早乙女君と合流する。ここから砂礫地を緩い斜登高で行く。小赤石岳への稜線にかけて岩礫帯の電光型の急登となる。甲斐駒ガ岳と並ぶ一等三角点の山・赤石岳頂上【写真2】の眺望は素晴らしい。赤石岳を越え、百間平あたりで雲行きが怪しくなり、百間洞露营地付近での雷雨は凄まじかった。頭上足下、前後左右雷だらけ、雷雲のど真ん中で大音響の雷鳴に声も出ない。皆、余りの凄まじさに身動きも出来ない。無意識に金物を外し、少しづつ低い所に下がる。やがて雷雨は去り天候は回復したが天候の急変には驚かされた。百間洞露营地で幕営。

露营地から大沢岳と中盛丸山のコルに進む。ジグザグ登りがお花畑の中に続きハイマツ帯となり稜線のコルに出る。

稜線上で辺りを眺め、一息入れているとき、中西先生とOBの早乙女君が行く手の聖岳の方を指して、何か話をして



【写真3】 大河内岳－中盛丸山のコルで

【写真3】いました。ラジオで台風が近づいていることを聴き、下山についての相談をしていたとのことでした。後で聞いたことです。いつも生徒の安全に配慮し、先を読んでいなければならないことを学びました。結局、聖岳・聖平－北俣渡への予定下山ルートを変更して、コルから尾根伝いに大沢渡に下り、そこから木材搬出用の森林鉄道に便乗させて貰い、北俣渡を経て木沢に着き、バスで平岡駅に向かいました。

無事下山して、帰りの列車内で“ほっ”としながら、“草臥れた。もう、山はいいや、沢山だ”と思いました。

やがて新宿が近くなり、窓を開けると騒音が聞こえてくる。都会の雑踏が目に入るようになると、“次は、何処の山に登ろうかな”と、山の静けさ、自然の素晴らしさを思い出して「疲れた、山はいいや」はすっかり忘れ、次の登山をあれこれと考えてしまうものです。当時の資料やアルバムを見ながら、若かりし頃の山行に思いを巡らしました。

さて、あと何年、「登山」いや「山歩き」が出来ますやら、足腰を鍛えておかなければと思っています。

平成15年度決算報告書

平成15年4月 1日から
平成16年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)	
科目	予算額	決算額	摘要
同窓会費	1,895,600	1,895,600	789名分
入会金	500,000	500,000	250名分
賛助会費	750,000	703,490	214名分
総会会費	0	0	
寄付金	0	0	
雑収入	125,000	125,065	会報掲載広告代及び預金利息
当期収入合計	3,270,600	3,224,155	
前年度繰越金	1,865,814	1,865,814	
収入合計	5,136,414	5,089,969	

(収出の部)		(単位：円)	
科目	予算額	決算額	摘要
総会費	1,538,000	1,449,945	
行事費	0	0	
通信費	1,365,000	1,288,880	会報発送郵便料
印刷費	170,000	160,645	賛助会費振込用紙
雑費	3,000	420	
会議費	105,000	63,576	
役員会費	95,000	59,576	出席者食事代
委員会費	0	0	
通信費	7,000	4,000	開催通知郵便料
雑費	3,000	0	
補助費	490,000	475,000	
部・同好会補助	460,000	445,000	在校生部活動補助
体育文化祭補助	30,000	30,000	梧林祭の祝金
事務費	603,000	506,174	
人件費	370,000	297,844	会報発送手間代・役員手当等
事務消耗品費	125,000	139,815	会報送用封筒代
交際費	100,000	67,350	慶弔費
交通費	5,000	0	
雑費	3,000	1,165	
名簿費	454,000	443,195	
機関紙	204,000	211,250	16,250部作成
卒業生名簿	250,000	231,945	平成16年3月卒業生分470部
予備費	100,000	157,500	「週間朝日」掲載広告代
当期支出合計	3,290,000	3,095,390	
次年度繰越金	1,846,414	1,994,579	
支出合計	5,136,414	5,089,969	

【特別積立金】

(単位：円)		
保管種別	本年度末	前年度末
定期預金	7,000,000	7,000,000

〔会計監査報告〕

私たちは、平成15年4月1日から平成16年3月31日までの平成15年度における会計監査を行い、次のとおり報告する。

会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて監査を行った結果、公正かつ相違ないことを認めます。

平成16年4月21日

会計監査 藤田 貞 男
会計監査 市川 康 憲

本年は、定期総会が開催されませんので本誌に平成15年度の決算報告ならびに平成16年度の予算を掲載いたします。

平成16年度予算について

平成16年度収支予算は、平成16年度の事業計画と平成15年度の収支実績とを勘案して編成した。

1. 収入の部

同窓会費は 732名、入会金は 236名を、また賛助会費は 700口を収納予定人員と積算し予算計上した。

なお、本年度は、定期総会が開催されないことに伴い、総会会費および寄附金収入については、予算未計上とした。

平成16年度予算書

平成16年4月 1日から
平成17年3月31日まで

(収入の部)		(単位：円)	
科目	予算額	前年度予算額	増減
同窓会費	1,758,200	1,895,600	△137,400
入会金	472,000	500,000	△28,000
賛助会費	700,000	750,000	△50,000
総会会費	0	0	0
寄付金	0	0	0
雑収入	81,700	125,000	△43,300
当期収入合計	3,011,900	3,270,600	△258,700
前年度繰越金	1,994,579	1,865,814	128,765
収入合計	5,006,479	5,136,414	△129,935

(収出の部)		(単位：円)	
科目	予算額	前年度予算額	増減
総会費	1,533,000	1,538,000	△5,000
行事費	0	0	0
通信費	1,360,000	1,365,000	△5,000
印刷費	170,000	170,000	0
雑費	3,000	3,000	0
会議費	105,000	105,000	0
役員会費	95,000	95,000	0
委員会費	0	0	0
通信費	7,000	7,000	0
雑費	3,000	3,000	0
補助費	480,000	490,000	△10,000
部・同好会補助	450,000	460,000	△10,000
体育文化祭補助	30,000	30,000	0
事務費	591,000	603,000	△12,000
人件費	370,000	370,000	0
事務消耗品費	125,000	125,000	0
交際費	90,000	100,000	△10,000
交通費	3,000	5,000	△2,000
雑費	3,000	3,000	0
名簿費	456,000	454,000	2,000
機関紙	221,000	204,000	17,000
卒業生名簿	235,000	250,000	△15,000
予備費	100,000	100,000	0
当期支出合計	3,265,000	3,290,000	△25,000
次年度繰越金	1,741,479	1,846,414	△104,935
支出合計	5,006,479	5,136,414	△129,935

平成15年度決算報告について

当初予算においては、単年度収支で 2万円の支出超過を予定して開始されたが、収入はわずかに当初予算を下回る 5万円の減、支出も極力経費の節減に努めたことにより、予算に対して 19万円の減少となり、ほぼ予算通りの執行となった。

この結果、単年度では13万円の収入超過となり、次年度への繰越金は 199万円となった。

1. 収入の部

同窓会費、入会金、雑収入は、予算どおり収受し、賛助会費は予定人員に達しなかったため減少した。

2. 支出の部

支出科目は、予備費を除き全般にわたって節減努力したことにより、予算対比で減少した。予算外の広告を「週間朝日」に掲載したことにより、予備費が増加した。

2. 支出の部

本年度の事業計画は、①同窓会だより「桐」の発行、②平成17年 3月卒業の卒業生名簿の作成、③在校生の部・同好会に対する補助等が主なものである。これ以外の経常的運営費については、明年の総会・懇親会開催に備えて極力抑制した予算を編成した。

この結果、支出予算額はほぼ前年並みであるが、収入予算額の減少により、次年度への繰越金は 174万円を予定し、単年度収支では25万円の支出超過の予算となった。

弓道部 活動の近況

コーチ **高木 英二**
(昭和50年 3月卒)

弓道部は、昭和28年4月本校教諭宮田喜寿先生を中心に同好会としてスタートし、昭和30年4月に部に昇格し弓道部として発足。本年で創部49年目になりました。現在、部員数は、3年生 4名、2年生 3名、1年生 3名の10名です（本年4月現在）。近年は少子化で部員数が激減しており、毎年、新入部員の確保に苦勞する時代となり、さらに大学進学のために進学塾に通う部員もいて、毎日の練習で全部員が揃って練習する日もなかなか無い状態です。でも、部員が少ない分練習は、たっぷり矢数を引けます。合宿は春夏に行っており、OBも弓を持参して参加し、部員と競い合っています。また、顧問の工藤 徹先生も5年前から弓を引き初め、今では部員と一緒に毎日練習して、今年は、初段に挑戦すると張り切っています。

近年、大学に進学しても弓道を続けるOBが増え、活躍するOBを見て現役部員の良い励みになっています。また、神奈川県立厚木北高校と定期戦を春秋2回行っていきます。厚木北高校の監督は、目黒学院弓道部OBの村石圭樹（昭和44年卒）さんで、ご夫婦で弓を引かれ、ご主人が監督、奥様がコーチで指導をされ6年目になり、近年神奈川の大会で上位の成績をあげ、関東大会、インターハイ等に出場しています。村石さんは、目黒学院の夏合宿に、毎年ご夫婦で参加されています。

今年3月、平成3年から弓道部の顧問をされてきた岡本勝利先生が定年退職され、顧問は工藤先生1人となりましたが、

明年平成17年の創部50周年を目指して、この1年さらに頑張っていきたいと思います。以下に、過去6年間の主な実績を記載します。

- 平成10年 関東個人選抜大会出場
- ” 11年 インターハイ出場（岩手県）
関東個人選抜大会出場
- ” 12年 関東大会出場（山梨県）
関東個人選抜大会出場
- ” 13年 関東大会出場（埼玉県）
関東個人選抜大会出場
- ” 15年 関東大会出場（茨城県）
全国選抜大会出場（東京）



(筆者は写真最後列、左から3人目)

油圧の総合メーカー

YUKEN

油研工業株式会社

(東京証券 第一部上場)

代表取締役会長

結 城 重 一

(第1期卒業)

本社 相模事務所 神奈川県綾瀬市上土棚中4-4-34
TEL (0467) 77-2111
営業本部 東京都港区芝大門1-4-8 清和ビル
TEL (03) 3432-2111

公認会計士、中小企業診断士
税理士、司法書士

宮川良雄事務所

所 長 宮 川 良 雄

(第1期卒業)

監査、税務、登記
企業診断、相続税

〒152-0003
東京都目黒区碑文谷2丁目7番17号

TEL 03-3716-7666
FAX 03-3712-1365

◆クラス会開催報告◆

久 我 茂三郎 (昭和20年3月卒)



第58回の五月会を平成15年 5月31日 (土) PM1:00~4:00、上野池之端の「伊豆栄」にて開催しました。出席者は20名、欠席者は19名でした。開会に際して、出席者全員で黙祷を捧げ、物故会員13名のご冥福を祈り、引き続き出席者と欠席者全員の健康を祈って乾杯し、懇談へと入りました。

(筆者は写真後列の左端のYシャツ姿)

賛助会費の納入をよろしく お願いいたします！

賛助会費：一口1,000円

賛助会費は、一口1,000円で、口数は任意となっております。お志のある方は、複数口のご協力をよろしくお願い申し上げます。また、財政面で安定した本会運営を行っていくために、多数の会員諸兄のご協力をお願い申し上げます。※納入にあたっては、同封の郵便局用「払込通知票」をご使用のうえ、お振込みください。

★総会・懇親会のアイデア募集★

明平成17年は、3年ぶりの総会・懇親会の開催年に当たります。平成14年開催の総会・懇親会開催時に、今後の開催方法について出席者からさまざまなご意見をいただきました。(アンケート結果は、昨年の本誌に掲載済み)

そこで、今回、初めての試みとして、幅広く会員皆様のアイデアを募って、来年の総会・懇親会開催の参考にさせていただきたいと思っております。具体的には、①開催の時期②開催時間③開催場所④参加費⑤懇親会の内容等、何でも結構です。

自分が出席するとしたら、どういう総会・懇親会を希望なさるのか、是非、ご意見をお寄せください。

アイデアのお寄せ先は、下記でお願いいたします。

- ①電子メールによる方法 kiri@meguro.ac.jp
- ②郵便による方法

〒191-0042 日野市程久保8-14-7 安達 富夫

◆恒例「親子二代卒業生」ご紹介◆

浅野 幸生 (父)	昭和41年3月卒
晃裕 (子息)	平成16年3月卒
小山 喜平 (父)	昭和49年3月卒
雄亮 (子息)	平成16年3月卒
鈴木 敏一 (父)	昭和49年3月卒
佑一郎 (子息)	平成16年3月卒
吉川 誠 (父)	昭和51年3月卒
孔 (子息)	平成16年3月卒

★同窓会ホームページのアドレス★

<http://www.meguro.ac.jp/kiri/>

◆急募！ 同窓会活動にご協力いただける人材◆

対象 年齢不問、同窓会の活動に関心のある方。
パソコン、インターネットに興味のある方大歓迎。
連絡先 安達 富夫 TEL 090-4063-6580
E-mail: kiri@meguro.ac.jp

●クラス会・同期会の開催状況をお寄せください！

本紙では、紙面の一層の充実を図り、会員にクラス会、同期会の開催状況を広くお知らせするために、投稿をおまちしています。

〔要領〕開催の様様(開催日時、場所、参加者数等)を、字数1,000字以内にまとめ、写真を添えて投稿者の氏名、住所、電話番号、卒業年を明記して下記にお送りください。

〔宛先〕〒153-8631 目黒区中目黒1-1-50
目黒学院高等学校同窓会事務局 まで

◆編集後記◆

今年も、ようやく会報「桐」の編集作業を終えることが出来ました。毎年のことながら、編集が終わるとともに、ゴールデンウィークが終わり、つかの間の休息からまた、あわただしい会社人間に戻るといふ、日常生活の繰り返しが始まります。

ところで、年々、年を重ねるとともに、諸先輩の訃報や体の不調に接することが多くなってきたのが、大変残念です。つい、数日前にも共に母校で青春時代を過ごした、1年先輩が現代の平均寿命からすれば、まだまだ若くしてこの世を去りました。生あるもの、すべてに終わりがあはることは承知しているものの、何とも言えない心の寂しさを感じています。会員皆様のご健康を、祈らざるを得ない思いの昨今です。

(T)